

無言館と、かつてありし信濃デッサン館 ——窪島誠一郎の眼

The vision of Kuboshima Seiichiro: Founder of two museums to artists that died young

2024年10月12日（土）～12月15日（日）

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

No.	作家名	作品名	技法・素材	制作年	寸法 (cm)	所蔵
序章——自画像						
0-1	関根正二	自画像	インク・紙	1916年	27.0×21.4	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
0-2	五十嵐弘	自画像	油彩・キャンバス	1933年	53.3×45.9	無言館
0-3	伊藤文雄	自画像	油彩・板に貼った紙	制作年不詳	41.5×27.5	無言館
0-4	伊藤守正	自画像	油彩・板	制作年不詳	33.0×23.8	無言館
0-5	鶴頭盛次	自画像	油彩・板	制作年不詳	32.9×23.9	無言館
0-6	梅澤一雄	自画像	油彩・キャンバス	制作年不詳	91.2×73.0	無言館
0-7	大倉裕美	自画像	油彩・キャンバス	制作年不詳	45.5×37.7	無言館
0-8	尾田龍馬	自画像	油彩・板	1940年	33.5×23.8	無言館
0-9	小野春男	自画像	鉛筆、色鉛筆・紙	1939年	30.9×23.3	無言館
0-10	久保克彦	自画像	水彩・紙	制作年不詳	28.5×24.0	無言館
0-11	桑田一彦	（自画像）	油彩・キャンバス	1940年	53.2×40.6	無言館
0-12	興梠武	自画像	油彩・板	1935年	45.5×37.9	無言館
0-13	椎野修	自画像	油彩・キャンバス	制作年不詳	27.5×22.6	無言館
0-14	武内秀太郎	自画像	油彩・板	制作年不詳	33.0×23.8	無言館
0-15	長岡義尚	自我像	油彩・キャンバス	1939年	45.7×38.4	無言館
0-16	芳賀準録	自画像	油彩・板	1943年	32.9×23.9	無言館
0-17	原田新	自画像	油彩・キャンバス	1936年	45.3×37.9	無言館
0-18	日高安典	自画像	油彩・板	制作年不詳	30.1×23.9	無言館
0-19	増田隆雄	自画像	油彩・板	1940年	33.0×23.6	無言館
0-20	町井邦夫	自画像	油彩・キャンバス	1944年	52.5×45.7	無言館
0-21	宮地英郎	自画像	油彩・板に貼ったキャンバス	制作年不詳	40.0×31.5	無言館
0-22	結城久	自画像	油彩・キャンバス	制作年不詳	45.5×38.0	無言館
0-23	吉田二三男	自画像	油彩・板	制作年不詳	45.5×37.2	無言館
0-24	渡辺武	自画像	油彩・キャンバス	制作年不詳	53.0×45.5	無言館

第1室——遺された絵と言葉

※作品No.4-8および6-5は第1室に展示してあります。

1-1	佐久間修	女性像	油彩・キャンバス	制作年不詳	58.0×68.3	無言館
1-2	高橋助幹	雪の降る建物	油彩・板	制作年不詳	24.0×33.4	無言館
1-3	吉田二三男	風景・椎名町	油彩・板	1940年	23.3×33.0	無言館
1-4	大倉裕美	S嬢	油彩・キャンバス	制作年不詳	145.8×112.0	無言館
1-5	渡邊友次郎	菊	油彩・キャンバス	制作年不詳	91.0×72.7	無言館
1-6	伊藤文雄	花	油彩・キャンバス	制作年不詳	49.7×60.6	無言館
1-7	渡辺武	人々	油彩・キャンバス	1941年	91.5×73.0	無言館
1-8	中村良明	きょうだい	油彩・キャンバス	制作年不詳	116.5×90.6	無言館

No.	作家名	作品名	技法・素材	制作年	寸法 (cm)	所蔵
1-9	矢崎博信	雷	油彩・キャンバス	制作年不詳	60.5×72.3	無言館
1-10	関口清	おっかさん	油彩・キャンバス	制作年不詳	77.0×60.7	無言館
1-11	関口清	風景のなかの人物	油彩・キャンバス	1942年	24.8×33.0	無言館

第2室——無言館の誕生

2-1	野見山暁治	栃木	油彩・キャンバス	1943年	52.6×65.0	練馬区立美術館
2-2	野見山暁治	骸骨	油彩・キャンバス	1947年	45.4×53.0	練馬区立美術館
2-3	野見山暁治	肖像	油彩・キャンバス	1949年	64.8×50.0	練馬区立美術館

第3室——最期まで描こうとしたもの

3-1	蜂谷清	祖母の像	油彩・キャンバス	制作年不詳	53.0×45.7	無言館
3-2	岸二郎	（母・つねの像）	油彩・キャンバス	制作年不詳	45.5×38.2	無言館
3-3	太田章	（弟たち）	紙本着色	制作年不詳	162.1×112.2	無言館
3-4	原藤雄	（長女・昌子の像）	油彩・キャンバス	制作年不詳	53.0×33.6	無言館
3-5	益田卯咲	父・柳外の像	油彩・キャンバス	制作年不詳	52.9×45.8	無言館
3-6	桑田一彦	妹・郁子の像	油彩・板	制作年不詳	33.3×24.2	無言館
3-7	山之井龍朗・俊朗	少女（合作）	油彩・板	1941年	33.3×24.2	無言館
3-8	石原壽市	国江の為に	油彩・板	1935年	33.0×23.2	無言館
3-9	原田新	妹・千枝子の像	油彩・キャンバス	制作年不詳	72.7×53.0	無言館
3-10	福井勇	（裸婦・正面向き）	水彩・紙	制作年不詳	63.5×48.1	無言館
3-11	興梠武	裸婦	油彩・キャンバス	制作年不詳	80.6×54.0	無言館
3-12	武内秀太郎	足を組む裸婦	油彩・キャンバス	制作年不詳	53.5×33.7	無言館
3-13	伊勢正三	数寄屋橋界隈	油彩・キャンバス	制作年不詳	46.3×53.8	無言館
3-14	片桐彰	街	油彩・キャンバス	制作年不詳	65.5×53.0	無言館
3-15	椎野修	屋根裏	油彩・板	1941年	24.3×29.3	無言館
3-16	岩田良二	故郷風景（病床にて）	水彩・紙	制作年不詳	62.5×82.0	無言館

第4室——静岡出身戦没画学生

4-1	野末恒三	自画像	油彩・キャンバス	制作年不詳	44.7×33.7	無言館
4-2	野末恒三	人物	油彩・キャンバス	制作年不詳	116.5×91.0	無言館
4-3	野末恒三	風景	油彩・キャンバス	制作年不詳	91.0×117.0	無言館
4-4	中村萬平	自画像	油彩・キャンバス	1941年	60.4×45.3	東京藝術大学
4-5	中村萬平	画室	油彩・キャンバス	1941年	145.3×112.2	東京藝術大学
4-6	中村萬平	人物（室内憩い）	油彩・キャンバス	制作年不詳	97.0×130.0	浜松市美術館
4-7	中村萬平	梅屏風	油彩・キャンバス	制作年不詳	65.0×53.2	浜松市美術館
※4-8	中村萬平	霜子	油彩・キャンバス	制作年不詳	89.6×64.4	無言館
4-9	桑原喜八郎	自画像	紙本着色	1940～1943年	64.7×52.3	掛川市二の丸美術館
4-10	桑原喜八郎	春日	紙本着色	1942年	186.0×127.3	掛川市二の丸美術館
4-11	桑原喜八郎	冬の山	鉛筆、水彩・紙	制作年不詳	53.6×76.7	無言館
4-12	佐藤孝	林の道	油彩・キャンバス	制作年不詳	60.1×45.5	無言館
4-13	佐藤孝	山の風景	油彩・キャンバス	制作年不詳	41.0×53.0	無言館
4-14	佐藤孝	民家風景	油彩・キャンバス	制作年不詳	33.3×45.4	無言館
4-15	佐藤孝	少年	油彩・板	制作年不詳	33.5×23.8	無言館
4-16	曾宮俊一	建築・習作	油彩・板	制作年不詳	31.7×40.8	無言館
4-17	曾宮俊一	風景	油彩・キャンバス	制作年不詳	45.2×60.0	無言館
4-18	曾宮俊一	風景・山	油彩・キャンバス	制作年不詳	31.7×41.0	無言館
4-19	曾宮一念	獲物（やまどり）	油彩・キャンバス	1944年	32.5×44.6	株式会社藤枝江崎新聞店蔵（静岡県立美術館寄託）

※作品No.4-8 中村萬平《霜子》は第一室に展示されています。

No.	作家名	作品名	技法・素材	制作年	寸法（cm）	所蔵
-----	-----	-----	-------	-----	--------	----

第5室——戦争と向き合う

5-1	藤田嗣治	アッツ島玉砕	油彩・キャンバス	1943年	193.5×259.5	東京国立近代美術館（米国より無期限貸与）
5-2	小磯良平	娘子関を征く	油彩・キャンバス	1941年	260.0×193.0	東京国立近代美術館（米国より無期限貸与）
5-3	椎野修	小休止	油彩・紙ボード	1943年	31.7×41.1	無言館
5-4	日高安典	八月のホロンバイルの夕暮	油彩・キャンバス	制作年不詳	14.5×32.6	無言館
5-5	前田美千雄	フィリピン島スケッチ	水彩・紙	1944年	28.3×44.0	無言館
5-6	丸山卓見	中国山西省太原	水彩・紙	1942年	58.4×75.3	無言館
5-7	江川信	歩哨	油彩・キャンバス	制作年不詳	53.3×33.9	無言館
5-8	原藤雄	白衣勇士	油彩・キャンバス	制作年不詳	99.9×73.0	無言館
※5-9	原精一	語らい	水彩・紙	1940年	47.0×117.5	神奈川県立近代美術館
5-10	石村日郎	静物	水彩・紙	1926～1927年	31.0×37.0	無言館
5-11	巖光	眼のある風景	油彩・キャンバス	1938年	102.0×193.5	東京国立近代美術館
※5-12	巖光	鷺と駝鳥	墨、色料・紙	1938年	31.7×30.3	神奈川県立近代美術館
5-13	巖光	警察病院	油彩・板に紙	1941年	14.0×18.0	神奈川県立近代美術館
5-14	巖光	自画像	油彩・キャンバス	1944年	79.5×47.0	東京国立近代美術館
5-15	松本竣介	建物	油彩・板に紙	1935年	97.0×130.0	神奈川県立近代美術館
5-16	麻生三郎	女	油彩・キャンバス	1943年	80.4×53.2	神奈川県立近代美術館
5-17	鶴岡政男	死の静物（松本竣介の死）	油彩・キャンバス	1948年	64.0×79.0	神奈川県立近代美術館

※展示替え（前期・後期）があります。作品No.5-9 原精一《語らい》：前期10/12～11/10、 5-12 巖光《鷺と駝鳥》：後期11/12～12/15

第6室——窪島誠一郎の眼

6-1	村山槐多	強盗	水彩、鉛筆・紙	1911年	74.0×57.6	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-2	村山槐多	信州風景（子守の少年）	木炭、水彩・紙	1913年	48.0×60.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-3	村山槐多	千曲川風景	木炭・紙	1913年	45.3×60.4	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-4	村山槐多	稲生像	水彩・紙	1913年頃	22.5×16.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
※6-5	村山槐多	尿する裸僧	油彩・キャンバス	1915年	80.3×60.6	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-6	村山槐多	猫を抱ける裸婦	木炭・紙	1916年	61.4×46.5	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-7	村山槐多	裸婦	木炭・紙	1917年	52.0×28.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-8	村山槐多	バラと少女	油彩・キャンバス	1917年	116.5×72.0	東京国立近代美術館
6-9	関根正二	三人裸像	インク・紙	1915年	28.0×22.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-10	関根正二	砂町風景	インク・紙	1916年	28.0×37.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-11	巖光	少年	鉛筆・紙	1937年	17.7×10.7	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-12	巖光	鰐	鉛筆・紙	1940年	11.7×31.6	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-13	巖光	男の顔	インク・紙	1941年	20.7×17.3	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-14	巖光	鳥	墨・紙	1942年	41.7×28.5	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-15	野田英夫	初冬	油彩・キャンバス	1932年	40.5×51.2	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-16	野田英夫	手紙を書く女	インク、鉛筆、色鉛筆・紙	1933年	20.9×25.6	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-17	野田英夫	野尻の花	油彩・ボード	1938年	33.0×24.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-18	松本竣介	ニコライ堂	鉛筆、木炭・紙	1941年頃	38.0×45.4	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）

※作品No.6-5 村山槐多《尿する裸僧》は第一室に展示されています。

No.	作家名	作品名	技法・素材	制作年	寸法（cm）	所蔵
6-19	松本竣介	少女	墨・紙	1941年	16.0×12.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-20	松本竣介	婦人像	墨・紙	1942年頃	35.5×27.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-21	戸張孤雁	玉のり	鉛筆・紙	制作年不詳	29.1×25.1	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-22	戸張孤雁	足芸	鉛筆・紙	制作年不詳	22.0×15.5	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-23	戸張孤雁	芸人	鉛筆・紙	制作年不詳	20.0×15.2	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-24	吉岡憲	笛吹き	油彩・キャンバス	1943年	100.0×40.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-25	吉岡憲	裸婦二態	水彩・紙	1947年	25.4×15.2	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-26	吉岡憲	人物	油彩・キャンバス	制作年不詳	35.4×26.1	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-27	広幡憲	無題	水彩・紙	1935年頃	27.2×24.1	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-28	広幡憲	案内せざる案内人	墨・紙	1935年頃	20.0×18.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-29	広幡憲	演説する人	水彩・紙	制作年不詳	23.4×18.8	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-30	古茂田守介	少年	インク・紙	1955年	36.0×25.0	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-31	古茂田守介	裸婦	コロタイプ・紙	1957年	27.5×39.4	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-32	古茂田守介	カレイ	油彩・キャンバス	1958年	24.2×33.3	長野県立美術館（信濃デッサン館コレクション）
6-33	村山槐多	手	鉛筆・紙	制作年不詳	26.2×37.7	KAITA EPITAPH 残照館

No.	資料名	所蔵
-----	-----	----

資料

D2-1	野見山暁治、宗左近、安田武『祈りの画集』日本放送出版協会 1977年	個人蔵
D2-2	『椎野修戦歿遺稿 俺はやれるの絵の道十五年』椎野力 1990年	無言館
D2-3	『椎野修遺作画集』椎野力 1986年	無言館
D2-4	『童女 中村良明遺作集』中村良明遺作集頒布会 1941年	無言館
D2-5	『伊藤守正遺文集 春は厭はしくなりぬ』伊藤きち 1947年	無言館
D2-6	『来年上京します 岩田良二へのレクイエム』松浦今子 1988年	無言館
D2-7	『石井芳雄遺作集』石井常雄、鈴木瓦美子、阿部万里子 1987年	無言館
D2-8	無言館建設趣意とご協力のお願い	無言館
D2-9	野見山暁治「煉瓦一枚のお願い」原稿	無言館
D2-10	戦没画学生慰霊美術館「無言館」建築図面集	無言館
D2-11	戦没画学生慰霊美術館「無言館」開館式典のおしらせ 1997年	無言館
D2-12	戦没画学生慰霊美術館「無言館」開館記念式〈式次第〉 1997年	無言館
D2-13	無言館開館ポスター	無言館
D5-1	敷島弘美智 戦場からの絵手紙	無言館
D5-2	石井芳雄 戦場からの絵手紙	無言館
D6-1	「信濃デッサン館」概要	長野県立美術館
D6-2	信濃デッサン館開館展ポスター	長野県立美術館
D6-3	『デフォルマション』1～30号、キッド・アイラック・コレクション・ギャルリイ 出版部 1977～1985年	長野県立美術館